

低頻度健診受診者の減少を狙う「PFS活用型被扶養者受診率向上事業」の標準モデル構築

サンデン健康保険組合

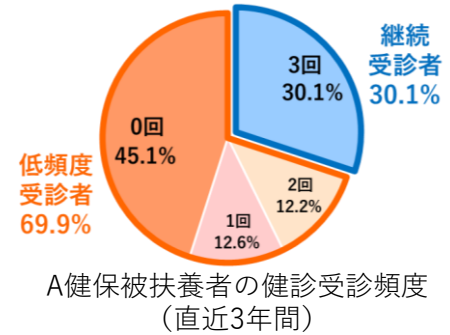
■ 本事業が求められる背景

被扶養者受診率の伸び悩み

被扶養者の特定健診受診率の低さは従前から課題視されており、これまでも多くの保険者で受診率向上対策が採られているが、大きな成果を得られている例は少なく、多くの保険者の頭を悩ませているのが実状。

低頻度受診者の存在

被扶養者の特定健診対象者のうち大きな割合を占める「健診受診頻度が数年に1回、またはそれ以下の方」の存在は、健診の目的である早期発見・早期治療の達成を困難にさせる。健診受診率を向上させることと同様に**健保組合にとって解決すべき課題**。



本事業の目的

- ① 健診受診頻度の低い被扶養者（＝低頻度受診者）の減少
- ② PFSを活用した健診受診率向上事業の標準モデル構築

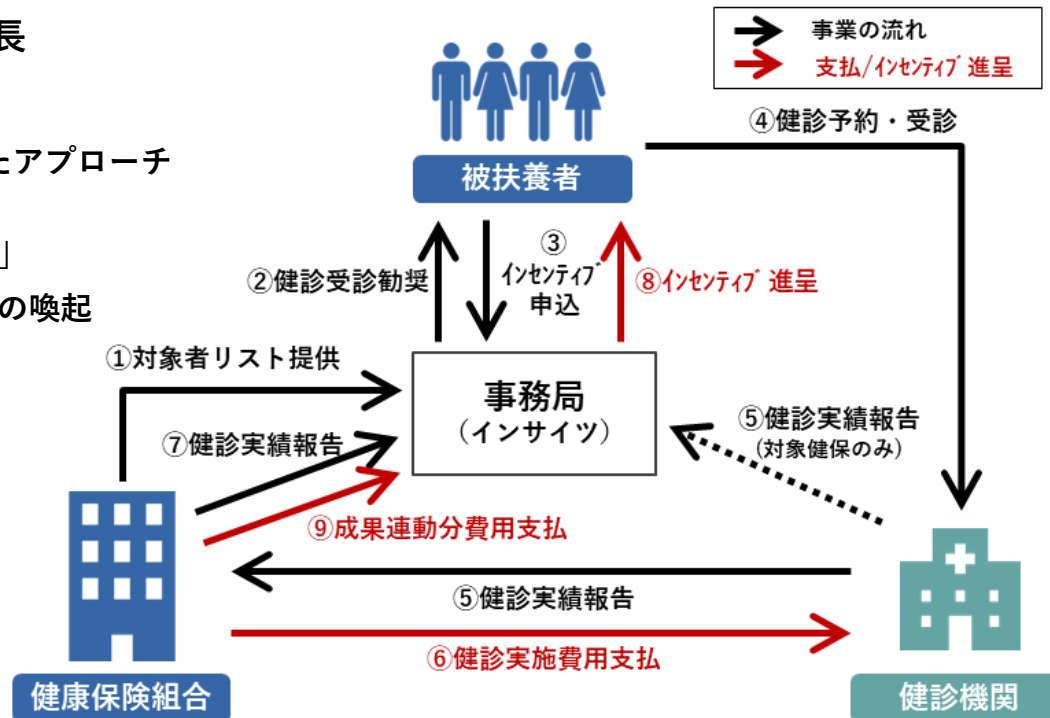
■ 「PFS活用型被扶養者受診率向上事業」の特長

▶ 成果創出のための工夫

- ✓ 健診受診頻度（継続的受診/低頻度受診）に応じたアプローチ
- ✓ ナッジ理論の活用
※申込で「約束」、交換券事前配布で「失う痛み」
- ✓ 意識調査（アンケート）を活用した健診受診意識の喚起

▶ PFS事業化のための重要要素

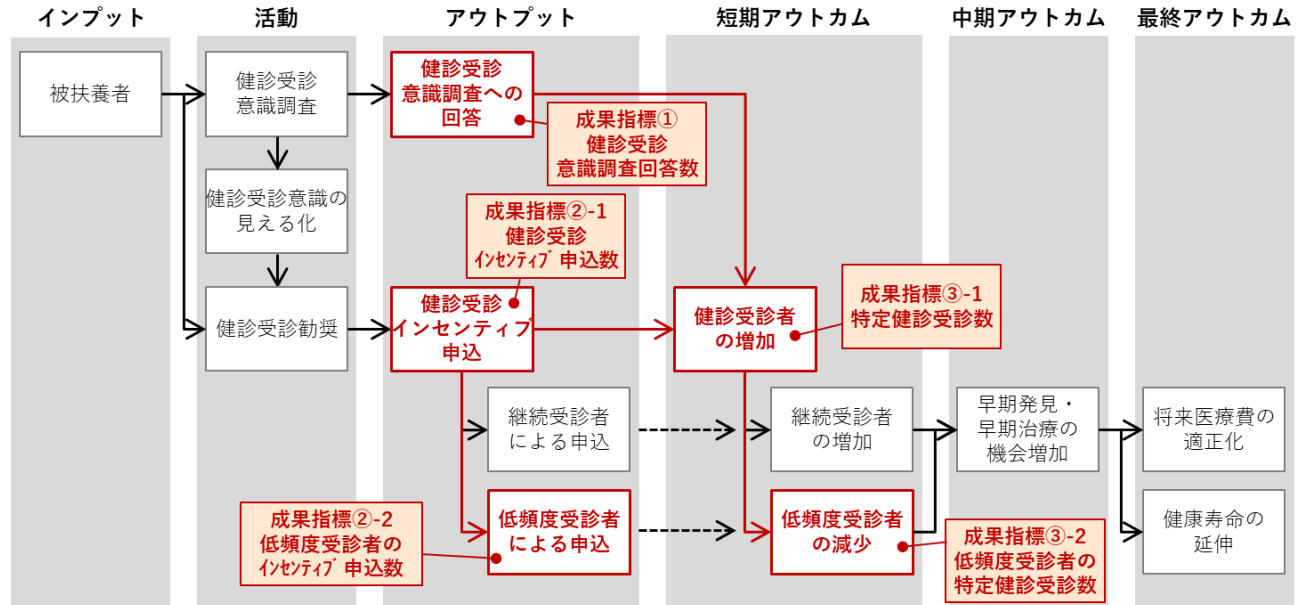
- ✓ 共同事業方式による事業者リスク分散
- ✓ 3ヶ年計画
- ✓ 補助期間終了後も継続を前提とした事業計画



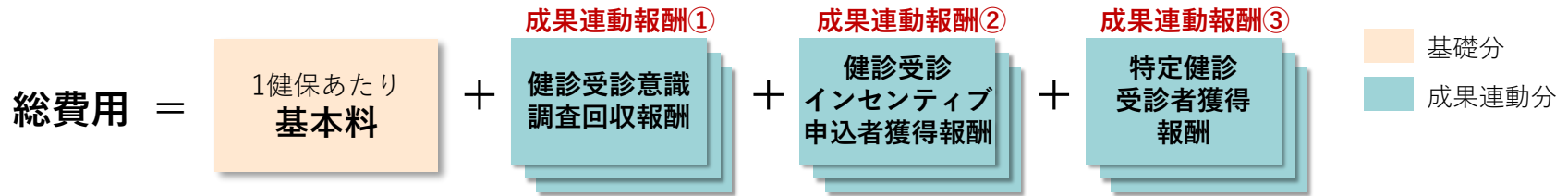
■ ロジックモデル及び成果指標

本事業では、事前のアンケートによる受診意識が向上する¹⁾こと、健診受診回数が多いほど総医療費が低くなる等の好影響が発生する²⁾ことを踏まえ、「**事前のアンケート調査及びナッジ理論、インセンティブの活用が低頻度受診者の減少に寄与するか**」について実証予定。

- 1) 吉田みどり, 岡久玲子, 多田敏子「アンケート調査実施群と非実施群の肺がん検診受診率の推計値の検討」
The Journal of Nursing Investigation Vol.12, No.2:60-67, March 31, 2014
- 2) 満武巨裕, 関本美穂「特定健康診査の受診に関する要因分析」厚生指 第61巻第7号 2014年7月



■ 総費用（報酬体系）



■ 事業スケジュール ➡ 令和6年度の被扶養者健診受診率向上及び成果検証のための3ヶ年計画

